

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立新東淀中学校 学校協議会

1 総括についての評価

【安全・安心な教育の推進】について

生徒は概ね規則正しい生活習慣が身につけており、学校の決まりを守って行動し、落ち着いた学習環境を維持することができている。特に、2学期末の学校生活アンケートから、「学校に行くのは楽しい」と回答する生徒の割合が昨年度に比べ2.5ポイント増加した。来年度は各学年の人権担当教員を拡充し、3年間を見据えた人権学習を中心に心の育成を推進する。

学校・学年行事では生徒の主体性を尊重し、各学年を通じて仲間と助け合って物事を解決する力を育てる取り組みを行っている。学級を中心に据え、自己肯定感や自己有用感を高めることで、97.1%の生徒が「人の役に立つ人間になりたい」と考えている。今後も、予測困難な時代を生きる生徒が、物事を多面的にとらえ将来に希望を持って生きぬく力を育む教育活動を行っていく。

とりわけ不登校生徒の在籍比率は、昨年度に比べ1ポイント減少した。今年度は、担任だけではなく、SSWやSCなど常駐する学校外の専門家との連携のもと、家庭訪問や電話連絡を継続して行い、不登校の改善に取り組んだ。来年度以降も、自主学习室等の別室登校や、放課後デイサービス等の学校外施設との連携を推進する。特に、防災や安全教育の一環として、地区ごとに全生徒を避難させる訓練や実体験を通じて、各取り組みを担う教職員集団の育成を図り、チーム学校として生徒の健全育成を継続し、一人ひとりの状況に寄り添った支援に努め、改善を図っていくことが了承された。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

学力の向上をめざして、総合的読解力育成カリキュラムを中心に、基礎・基本の定着とともに授業や学校・学年行事を有機的につなぎ、主体的で対話的で深い学びに取り組んできた。大阪府チャレンジテスト（3年生）では、昨年度に比べて、正答率7割未満の生徒が国語以外の4教科で減少し、正答率12割以上の生徒が数学以外の4教科で増加した。結果、2学期末の学校生活アンケートで82.1%の生徒が「授業の内容がよくわかる」ことへの肯定的回答を示している。また「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりのくらいの時間、勉強をしますか」との問いに対して、「1時間より少ない」と回答する生徒の割合が、昨年度に比べて5ポイント以上減少した。今後も教科ごとに課題を明確にして個別最適な学びにつなげることや、国語・数学・英語での習熟度別授業のあり方を検討し、授業毎に協働的な学びに継続して取り組む。

体力・運動能力については、昨年に比べ本年度は数値が増加し、全国並みの結果を示す種目もあり、大多数の生徒は体を動かすことや、健康を維持しながら成長しているといえることが了承された。

【学びを支える教育環境の充実】について

学習者用端末は、授業での利用や家庭学習時の課題の配信、欠席者へのオンライン配信、心の天気の入力や各種アンケートなど、日常的な活用が定着した。特に、働き方改革については、ワークライフバランスを意識する教職員が増えたものの、年度当初からの「50周年事業」を中心に長時間勤務が増加した。一方でこの事業を通じて、学校・地域・PTA等の連携が大きく進んだことも事実である。今後も働き方改革を推進しながら、地域に貢献できる中学生を育てる責任と役割を見据え、本校の教育活動についてHP等広く情報発信に努めながら、地域に開かれた教育活動を推進する中で、業務の効率化と教員の負担軽減を図っていくことが了承された。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

【安全・安心な教育環境の実現】について

全学年落ち着いて学習に取り組める状況だが、本校生徒間や他校生徒間との SNS に端を発するトラブル事案もあり、保護者や他校教員と連携して指導している。また、若い教師集団で生徒との「駆け引き」が不得手でミドルリーダーの育成と安全・安心な居場所づくりが大切であること、11月にインフルエンザが流行し、1年（学年休業）と2年（学級休業）となった。今後も、各担当者や管理職を中心に、いじめについて見逃さない、子どもの変化を見逃さない姿勢が高く評価された。

3学期の学校公開（大阪プロレス）について、今後も継続検討することや3年生の進路（私立・公立）の現状と校内侵入事案について、東淀川署との連携のもと被害届も提出していることを共有した。

学校生活アンケートから「いじめは、どんなこと理由があってもいけないことだと思う」の項目について、最も肯定的な割合が80%に及ばない部分で、今後も継続した取り組みが必要であるとの共通認識が得られた。

【豊かな心の育成等】について

令和7年度も引き続き学力面の課題もあるが、誰もが嫌な思いをしない「居場所のある学級」をつくることで、相互に認められ、学習に前向きになることが提唱された。

自主学习ルームの個別最適な空間づくりを区役所と連携しながら、今年度進めてきた。来年度も継続して取り組みながら、学校元気アップのとの連携協力についても了承を得た。

学校生活アンケートを基にした結果分析と現状の課題を共有した。また、本校独自の防災教育、安全教育（大阪弁護士会との連携）、多文化共生教育・人権教育としての外国籍の生徒への取り組みについて報告した。

【誰一人取り残さない学力・体力の向上】について

小中連携の取組、学力向上への取組と「アセス」の2回以上/年の実施し、安心できる学級をベースとした学びあう学校づくり、「総合的読解力の4観点」に該当する活動を導入して主体的・対話的・深い学びの実現をめざすことが共有された。

令和7年度も引き続き学力面の課題としての「二極化」が顕著であるものの、教科や領域によっては昨年度に比べ伸びているものもある。

体力面では、男女とも9項目のうち6項目で全国平均よりも高い種目があり、昼休みのグラウンドでの活動状況等で運動が好きな傾向が続いている。

3 今後の学校の運営についての意見等

学校公開の推進：学校ホームページの更新・活性化において、本年度の閲覧数が200回/日になり、本年度も部活動・給食・学校行事等日々様子を随時アップしていくことが了承された。

授業参観の2回/年：保護者や地域の方に見ていただく機会をつくることで学校への安心感につなげることが了承された。

学校図書活動や校区小学校との連携における読み聞かせ活動が報告され、今後も個別最適な対応や地域に開かれた教育活動が展開されることが了承された。

学校の「弱い部分（特に教師力の弱さ）」をもっと共有し、地域として協力できることや地域生活での生徒状況、他中との繋がり等、生徒の負の側面を連携、協力し合える話し合いが今後も必要であることが共有された。